

1 今年度の取組と成果

【不易と変革を基にした充実期へ～児童理解に基づく個別最適・協働的な学びの展開～】【「目をかけ、声をかけ、手をかけ、心をかけ、適切に時・人をかける」5かけ指導】の基本方針として、昨年度に継続して、八王子市教育委員会・創価大学連携事業「個別最適・協働的な学び」を実現する授業デザイン研修プログラムを学校経営の中心に据えることができた。

そこで、1年間を通して、以下の点を意図的・計画的に実施することができた。

- ◎基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、各教科の本質に根ざした問題解決の能力、学び方やものの考え方を身に付けさせること。
- ◎一方向・一斉型の学習だけではなく、個々の能力や特性に応じた個別学習や、子どもたち同士の学び合い、さらには友達や様々な人達との協働学習、多様な体験を通じた課題探究型の学習等、ICTを活用した新たな学び方を工夫すること。
- ◎学習内容により指導体制を工夫して、子どもの主体的な学びの場を支えるようにすること。

【重点目標1】 持続する質の高い学校教育を創る

〈成果と課題〉

- 社会を取り巻く状況の推移や子どもの実状を考えながら、その折ごとに「今できること」を見付け、策を具体的に考え、素早く、組織としての確に取組むことができた。その学習の成果として、「長房地区まちづくり事業」による地域推進会議や学校運営協議会等との連携をもとにした総合的な学習の時間を第6学年と第5学年において展開し、保護者・地域への発表学習を展開することができた。
- 社会状況に応じて柔軟に対応するとともに、長房小学校の子どもの学びを止めず、「今しかない貴重な体験や学習の確保」を通して、子どもの成長に携わる教職員としての重要な責務として全教職員が職務遂行に当たることができた。
- 学習用端末、ミライシード、Me e tなどを活用した授業及び学校公開等、家庭との連携における学習環境整備と家庭学習の実施を構築することができた。このことは、教職員の資質を高め、次年度以降も、GIGAスクールの推進に大きな原動力の基盤となった。
- 創価大学との校内研究の継続を中心として、誰一人取り残さないICTを活用した教育の充実を図りながら、指導と評価の一体化に基づいた、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を一層進めるとともに、学習用端末を利用した授業の創造など、教職員の資質の向上は、今後も課題としての取組が不可欠である。

【重点目標2】 学力の向上と基礎・基本の定着

〈成果と課題〉

- 校内研究は、「ICT活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体化の指導をめざして～外国

語活動・外国語科を通して、自分の考えを、みんなで表現したり、伝え合ったりすることで、学びを深める児童の育成～」をテーマに授業改善及び児童への学習指導を展開できた。

○日常の授業、他教科でも自分の思いや考えを広げる機会を多く設ける工夫に取り組んでいる。

○算数の朝学習への全校体制での取組を継続させ、算数の基礎学力の定着を図っている。

○友達と考えを伝え合うことで協働的な学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する授業を展開している。

○動画を作成した授業の試作など、より新たな授業の構築に取り組んだ。

○読書環境の整備・充実 図書室からの年間貸し出し冊数・・・5000冊

○読書環境の整備をさらに進め、計画的に読書活動を実施することができた。読書月間の設定(2学期)、本棚の整理・図書館だよりの発行・全校一斉読書読み聞かせ(地域の読み聞かせの会・保護者・担任・給食管理委員)本の紹介はがき・八王子市図書館との連携など。

●郷土教育の一層の推進のために、「長房地区まちづくり事業」による地域推進会議や学校運営協議会等との連携をもとにした総合的な学習の時間を第6学年で継続し、キャリア教育の一層の推進を図る。他学年においても「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、教材の創意工夫による授業改善とともに、全ての教科等において、話し合ったり協働したりしながら学習することで、人と関わる力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを図る。

●試行錯誤を繰り返しながら学習するプログラミング的思考を充実させることで、思考力、判断力、表現力等を育てる。「思考力、判断力、表現力等を育成するために、自分の考えを表現し、伝え合ったり、学び合ったり、高め合ったりするなどの学習活動において、考えたことや伝えたいことをノート等を書く言語活動を重視する」

●読解力、語彙の量などの学習内容については、個人差が大きい。自分の思いや考えを表現する力の育成が必要。「文字を正しく整えて書くことができるようにする」

【重点目標3】 いじめを許さない環境づくり

〈成果と課題〉

○「心の教育をめざす長房小学校」で示されている「言われてうれしい言葉をつかい、みんなと仲良く助け合い、学ぶ喜びを体得し、地域と共に歩む学校」の実践を継続することができた。

○いじめに関する子ども対象のアンケート調査を年3回(学期に1回)に実施し、いじめの把握と、いじめに向かわせないための未然防止に取り組むとともに、子どもの相談を充実させ、身近に相談できる大人がいることに知らせている。また、アンケート等を卒業後3年間保存・管理する体制を改めて確認し、整備を徹底させた。

○毎週木曜日に学校いじめ対策委員会の実施を中心に、未然防止といじめを発見したときに組織的に、かつ早急に対応することができた。さらに、SSWや関係諸機関との連携を生かし、児童と保護者に対して、きめ細やかで共感的な対応を大切にしている。

○生活指導朝会や日常の情報交換を大切し、全教職員が共通の認識をもって指導にあたっている。

○教員は、子どもの様子を把握し、休み時間や放課後も出来るだけ子どもとともに過ごし、全学級で居場所がある温かい学級づくりを進めている。

○「あいさつをする」「言葉づかい」「時間を守る」の指導に取り組むとともに、全校での発表の機会

を設け相手を尊重することの大切さを全校で確認し、実践できる心の教育を進めている。

- 異学年交流（たてわり班活動）や特別支援知的固定学級（なのはな学級）との交流教育によって、一体感の醸成や人と関わる力を伸ばし、社会性を育成している。
- 全校朝会では、「なかよく助け合う」「感謝の気持ちを大切に」等、具体的な例を挙げたり、本の読み聞かせを行ったりしながら、全校の子どもたちに分かりやすく講話を行った。
- 「八王子市いじめ防止に関する基本的な方針」や本校の「いじめ防止基本方針」を踏まえ、次年度も学校いじめ対策委員会を毎週木曜日に開催するとともに、ＳＳＷや関係諸機関との連携を継続して、いじめ・不登校・児童の安全等の問題に対し未然防止・早期発見・早期対応について、組織的対応を一層進めることが課題である。

【重点目標４】 多様性を認め合う資質を育てる

〈成果と課題〉

- 地域と連携した障がい体験授業の構築を進めることができた。
- 他者を思いやる心や子どもの自尊感情を高めるとともに、ボッチャ体験学習をレガシーとして構築することができた。
- 八王子市高齢者安心相談センター長房（八王子市地域包括支援センター）と複数の福祉施設との連携の在り方を実践することができた。
- 特別の教科 道徳の時間において、「考える道徳」「議論する道徳」の授業改善を進め、子どもたち自身が、答えが一つではない問題に対して、自らの問題として話し合い、実際に行動に移す力を育成し、子ども相互で認め合い、励まし合い、高め合い人間関係の育成を図っている。
- 「自分の命は自分で守る」を防災教育の基本とし、消防署や地域自治会と連携した様々な想定による避難訓練を実施し、児童が日常生活で自ら判断し行動できるようにする。

【重点目標５】 特別支援教育の充実

〈成果と課題〉

- 特別支援教室「あさかぜ学級」と特別支援教育専門員、都巡回相談員とも連携・協力し、指導を充実させることができた。
- 配慮を要する子どもの理解を深め、特性に適した関わり方と指導力を高める。その指導の方針・経過を記録し、保護者と共有・連携するとともに、組織として指導する体制を整えることができた。
- 連携型個別指導計画の作成を通じて、学校の方針と保護者の願いを把握し、保護者に寄り添った継続的な指導を行うとともに、作成した個別指導計画に基づいた指導を通じて、子どもの成長に寄り添った、きめ細やかな指導を行い、指導の客観性や継続性をもたせる。
- 計画的な研修と実践を通して、特別支援教育の考えや手法を全教職員が共有する。
- 「指示を分かりやすく」「授業を分かりやすく」「環境を分かりやすく」など「その子に分かりやすい指導は、他の子にも分かりやすい。」を日々の教育で実践する。
- 学校サポーター、あさかぜ学級の担任、特別支援教室専門員等、全教職員が同じ認識をもち、子どもと保護者に対応する。

- 特別支援教育の必要な児童や問題行動に向きがちな課題を抱えている子どもに対しては、特別支援コーディネーターや生活指導部を中心にし、全職員の協力体制を構築して指導にあたった。
- スクールカウンセラーや都・市の巡回心理士訪問、ソーシャル・スクールワーカー、外部機関（医療機関・八王子児童相談所・子ども家庭支援センター・就学調整相談・民生児童委員等）にも協力を依頼し、継続して対応策を考えた。
- 学校生活支援シート及び連携型個別指導計画の作成・活用により特別支援教育を進め、特別支援教室との連携を図り、児童への支援体制を充実させる。
- 特別支援教育コーディネーターが中心となり、学校サポーターやスクールカウンセラーと情報共有し、校内委員会やケース会議を開催し、適宜専門機関と連携し、適切な支援・指導を展開する。

【重点目標6】 体力の育成と運動能力の向上

〈成果と課題〉

- 体力調査の結果の見方や活用の仕方について、子どもと保護者に説明し、自己の課題を見付け、その解決に活動を選んだり工夫したりできるようにする。なのはな学級の子どもたちも体力調査に参加し、体力向上の取組や運動習慣・生活習慣、体育・健康に関する指導等の改善に活用した。
- 持久走(2月)など通じて子どもに目標をもたせ、主体的に体力向上に取り組んだ。さらに、なわとび週間や外遊び週間を設定して、運動への意識をもたせることができた。
- 運動量のある体育の授業を工夫し、継続的に実践した。
- 子どもが楽しみながら運動・遊びに取り組めるような学級ボールの整備や安全に運動できる施設・設備・用具の整備を行った。
- 休み時間の外遊び励行する。(運動の日常化)
- 健康的な生活習慣の形成(食事、運動、休養及び睡眠)に結び付く保健の学習を行った。
- 体力調査の結果を分析し、引き続き体力向上の取組や運動習慣・生活習慣、体育・健康に関する指導等の改善を行うとともに、運動の日常化を進める。

【重点目標7】 職場の働き方改革を進める

〈成果と課題〉

- ペーパーレス会議の定着により、データによる資料管理及びネットワークの活用が浸透し、業務を効率化させることにつながった。また、学校・学級のたより、保護者配布文書等をデータ化し、緊急一斉メールも含めて、配信による周知を行うとともに、学校評価の電子回答を校務支援システムの活用により実施することで、業務を効率化させることにつながった。
- 在校時間については、教職員一人一人が月の残業時間40時間以内を意識して業務に取り組む。勤務時間の見直しについては、業務について一緒に考えることを通じて、短縮をめざしている。
- 机上、分掌の棚、教材室、パソコンフォルダ等の整理整頓を日常化させた。
- スクール・サポート・スタッフへの業務依頼を通じて、授業準備や子どもたちへの指導時間を確保することができた。
- 地域運営学校として、学校運営協議会を中心とした学校支援組織との連携を強化し、教育の質の向上と地域と共に歩む学校づくりを進める。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) より一層の学力の向上を図るために

～「よく考えやりぬく子」を育成するために（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力）～

◎個別最適な学び及び協働的な学びの実現をめざして、1人1台学習用端末の日常的な授業での活用、基礎・基本の学習を適宜指導し、ICT機器の効果的な活用や教材・教具の工夫による学習等により、粘り強く学習に取り組む児童の育成を図る。

◎個々の児童が「何のために学ぶのか」という学習の意義を他の児童と共有し、全ての教科等において、話し合ったり協働したりしながら学習する主体的・対話的で深い学びの授業改善を図る。

◎八王子市学力定着度調査等の結果を踏まえ、基礎的・基本的な問題を解けない児童に対して、東京ベーシック・ドリルや八王子ベーシック・ドリル、1人1台学習用端末のドリル型学習コンテンツ等を活用した授業での繰り返しの学習等により、児童のつまずきに応じた指導を行う。

◎第3学年以上で実施する算数習熟度別指導では、簡潔で明瞭な発問や視覚的支援を活用したり具体物操作活動と考える場面等を設定したりする工夫を行う。また、理科の学習においては見通しをもった観察・実験等の充実により、学習の質を向上させることで理数科教育の充実を図る。

◎外国語科・外国語活動では、外国語指導助手(ALT)や地域人材との連携による体験的学習とICTの活用等を通して、「聞く・話す」「読む・書く」に向けた積極的なコミュニケーションを図るとともに、音声を中心とした外国語による言語活動を全学年で実施し、英語に親しみ、楽しさを味わわせ、興味関心を高め、活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。

◎課題解決型の学び方として、「気付く。感じる。見付ける。課題をもつ。考える。まとめる。発信する。活かす。」を踏まえた探究的な学習活動を確立し展開しながら情報活用能力の育成を図る。また、環境教育をSDGsと関連させて積極的に学習を展開し、「霊気満山高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」の活用による身近な郷土学習を通して地域への愛着等を深めるとともに、自分にできる身近なことを学習させることにより、環境問題に対する考え方や実践する力を育成する。

(2) より一層の豊かな心を育成するために

～「なかよく助け合う子」を育成するために（地域・社会との連携・協働を通した人間性）～

◎自分の大切さとともに他の人の大切さを認めるという人権尊重の理念に基づき、地域や家庭との連携を通して児童一人ひとりの生活指導上の課題や情報を共有し、不登校児童に対応して個別の状況への必要な支援を行う。また、全児童の安心安全な学校生活のための環境整備と不登校児童の社会的自立に向けた多様な教育的機会の確保を行う。

◎児童の個別の実態や特性に応じた生活や学習上の困難の改善、克服等のための適切な指導と必要な組織的支援について、学習環境の構造化や合理的配慮を行うとともに、全教育活動を通して各教科等の内容に関連付けた指導を行う。さらに、個々の児童の学習や学校生活の充実とともに、児童が相互に思いやる心を育てる。

◎八王子市いじめ防止に関する基本的な方針や長房小学校いじめ防止基本方針を踏まえ、学校いじめ対策委員会を毎週木曜日に開催し、いじめ・不登校・児童の安全等の問題に対して、情報共有を基にした組織的な支援体制を構築するとともに、未然防止・早期発見・早期対応をすすめる。

◎いじめをしない・許さない学級作りを通して思いやりの心を育てるとともに「八王子市いのちの大切さを共に考える日」を6月の道徳授業地区公開講座の日とし自他の生命を大切にする教育を行う。また、いじめ・体罰防止の取組として、週1回のいじめ対応の時間や年3回の児童アンケートを実施し、相談できる大人を確認するとともに、スクールカウンセラーの活用を図り、早期発見・対応を心がけ、児童が安心して自らSOSを発信できる環境を維持するため、全学級で1学期末までにSOSの出し方に関する教育を行う。

◎インクルーシブな教育の視点にたった特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を計画し、学校行事、各教科等、給食、縦割り班活動等を通して思いやりの心と望ましい人間関係を育成する。また、児童の自立と社会参加を見据え共生社会の実現に向けた取組として、都立特別支援学校との副籍による交流及び共同学習を推進し、校内活動や地域活動交流等により「地域で共に育てる」をめざす。

(3) より一層地域とともに歩む学校づくりのために

～地域運営学校として、学校・地域社会と積極的に連携した開かれた学校づくり～

◎「地域の子どもは地域で育てる」の意識を保護者・地域と共有・連携し、青少年対策長房地区委員会や学校運営協議会等と協働した三校地域清掃活動・三校交流会等を実施する。

◎近隣の保育園や幼稚園及び小・中学校や高等学校との交流を図り、スタートカリキュラムを実施し、自らの成長を自覚し、将来への夢と希望をもってよりよく生きる児童を育成する。

◎学校運営協議会や地域推進会議等の地域ボランティアの協力を得ながら、身近な郷土や伝統文化及び日本遺産等の学習を通して、課題発見並びに課題解決の能力の育成を図るとともに、地域推進会議と連携・協働した授業支援や各行事を通して、望ましい職業観や勤労観を育成する。

◎はちおうじっ子キャリア・パスポートを活用し、学び続ける心を育てるとともに、長房中学校グループにおける9年間の一貫性のある学校行事や活動への児童・生徒の取組と目標を共有することで、児童に自己の進路を選択する力とともに生きる力の醸成を図る。

◎長房中学校グループにおいて、「学習を大切にする子」「自他を大切にする子」「体を動かすことを大切にする子」を目標に9年間を見通してグループの全教員で、義務教育修了後『社会の中でよりよく生きようとする子』の育成をめざす。

◎学期に1回、「小中一貫教育の日」を設け、授業参観及び意見交換により連携を深めることを軸とし小中合同引き渡し訓練、第6学年の中学校授業体験や部活動見学と体験、小中交流会、中学校合唱コンクールリハーサル見学会、児童会と生徒会を中心にしたSNSルール作り等を実施する。

◎「学力定着プロジェクトチーム」を設置し、調査結果の分析と授業改善の取組内容等を共有し、学習に関する共通事項の検討を行い、学習に関するスタンダード策定を進めるとともに生活指導やICT、養護、特別支援のチームを設置し、児童・生徒の情報交換を定期的に行う。